

第 99 回女川原子力発電所環境保全監視協議会会議録

開催日時：平成 17 年 8 月 26 日 午後 1 時 30 分から

開催場所：仙台市 パレス宮城野 錦秋の間

出席委員数：23 人

会議内容：

1 開会

司会： ただ今から、第 99 回女川原子力発電所環境保全監視協議会を開催いたします。

本日は、委員数 37 名のところ、23 名のご出席をいただいておりますので、本会は有効に成立していることを報告いたします。

司会： 開会にあたりまして、会長の加藤副知事からあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(加藤副知事あいさつ)

3 新委員の紹介

司会： ここで、本協議会に今回よりお入り頂いた委員の方々を御紹介いたします。

宮城県議会議員の長島秀道委員です。

同じく宮城県議会議員の大学幹男委員です。

次に、宮城県信用漁業協同組合代表理事専務の小野正春委員です。小野委員は、本日所用により欠席されております。

以上でございます。

司会： それでは加藤会長に議長をお願いし、議事に入らせて頂きます。

4 議事

議長： それでは、よろしく申し上げます。

さっそく議事に入らせて頂きます。

はじめに、確認事項の「イ」平成 17 年度第 1 四半期の「環境放射能調査結果」について説明願います。

(1) 確認事項

イ 女川原子力発電所環境放射能調査結果(平成 17 年度第 1 四半期報告)について

(事務局から平成 17 年度第 1 四半期の環境放射能調査結果について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

須田委員： 放水口モニターにおける海水中のガンマ線測定が、データ収集装置が故障したため 2 日間欠測とのことですが、どういった故障だったのでしょうか。

東北電力： 計測装置のデータを収集しているパソコンが停止してしまったことによるものです。

須田委員： 測定装置自体が故障したということではないのですね。

東北電力： はい。

議長： 他にないようでしたら、次の議題、確認事項「ロ」平成 17 年度第 1 四半期の「温排水調査結果」について説明願います。

ロ 女川原子力発電所温排水調査結果(平成 17 年度第 1 四半期報告)について

(事務局から平成 17 年度第 1 四半期の温排水調査結果について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

(なし)

議長： ないようでしたら、次の議題、確認事項「ハ」平成 16 年度の「環境放射能調査結果」について説明願います。

ハ 女川原子力発電所環境放射能調査結果(平成 16 年度報告)について

(事務局から平成 16 年度の環境放射能調査結果について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

(なし)

議長： ないようでしたら、平成 17 年 4 月から 6 月までの環境放射能及び温排水調査結果並びに平成 16 年度の環境放射能調

査結果につきまして、本日の協議会で御確認を頂いたものといたしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、これをもって御確認を頂いたものといたします。

次に、報告事項に移ります。

報告事項「イ」の「女川原子力発電所の状況について」説明願います。

イ 女川原子力発電所の状況について

(東北電力から女川原子力発電所の状況について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いいたします。

安住委員： 地震の問題は自治体においても大変な問題であり、とんでもない地震が起こったらどうなるのかという質問は大変多く、住民が不安に思っていることは事実であります。極端なことを言えば、この前も講習会においてマグニチュード 13 の地震が起こったらどうなりますかという質問があり、その際講師の先生が答えたのは地球が半分になりますというものでした。そのときには皆諦めなければならぬわけですが、通常の実績を踏まえた中での安全と言うことを考えた場合、最大の関心は地震だろうと思います。そのような訳で、先ほど説明があった中での、今回の地震が設計用最大震度を超えたかについては皆さん大変関心をもっております。従来の説明を聞いての認識では、200 ガルを超えると自動停止になるということが一般的でした。今回の 8.16 宮城地震により、我々は初めて 250 ガルという基準を認識したと言ってもいいと思います。他にも 375 ガルという設計用限界震度という基準もありますが、先ほどの説明でも建屋の基礎盤が岩盤から 2~3m との話をされたが、我々が現地で聞いたときには 6m という話も聞いております。そうなりますと、我々が震度を見た場合、例えば震度 3 と震度 4 の違いについての曖昧さは想定できるのですが、ガルという単位で現されたものはある程度正確なものが示されると考えるわけです。私も現地で指摘しましたが、確認しないと分かりませんというような説明では如何なものかと思えます。先ほどの説明で実際の加速度は約 1 割下回るとのことでしたが、曖昧であるということでは逆に 1 割上回ることもあるということでしょうか。ですから、そのような曖昧さはどのようなものであれ解消して欲しいと単純に申し上げた経緯があります。そのようなことを研究して欲しいと思います。

それから、S1 と S2 についてですが、地震学者の間でこのような部分的な設定ではどうかという議論が最近あると聞いております。SS という基準を設定すべきとの議論になっていると聞いておりますので、その辺を総合的に考えてもらいたい。先ほどは被害がなかったとの説明であり、地震の周期や加速度など色々な要因があるとの説明でしたが、色々な要因があるのは分かりますが、我々から見て知りたいのは結局この建物は大丈夫なのかということです。後付で色々な技術的な説明は出来ると思いますが、今後は我々にもわかりやすい説明が、直ぐに行われるような方向に持って行って欲しいと思います。また、先ほど色々な例えば地殻や活断層がありこのような設計になっているとの説明でしたが、どの地域でどの発電所がどのような設計をしていることは公表されているのでしょうか。全てが同じでは無いと思えます。我々も勉強していきたいと思えますので、今後考えられる対策はあるのかどうかも含めて回答をお願いします。

東北電力： まず、今回 250 ガルを超えたか超えなかったかが分かりづらいとの御指摘でしたが、先ほどお話ししたように固い岩盤上のある 1 地点で、0.02 秒という極めて短い周期で 250 ガルが観測されたということでは比べるのではなく、解析の段階で、各周波数に応じた地震波というものがあるわけですが、それを入力した際に各建屋がどんな応答をするか、十分耐えられるのかということをお慮する必要がありますということが一つあります。それで、今回の地震で 250 ガルを 1 地点で超えたということではな

く、今回の地震で各地震波、周波数により各建屋、各部所がどのような動きをしたかを解析する必要があります。その結果全てが下回っていれば合格なのですが、例えば1カ所を超えたとして、超えたのが建物の固有周期と合っていたかを考慮する必要があります。外れていれば、全然問題ないわけです。そういったことを今解析しているものですから、少し奥歯に物の挟まったような言い方に聞こえるかもしれませんが、そういったことを度外視して公表すると単に超えたのではないかと言われてしまうので、そのところをきちんと解析して、安全上問題なかったということを確認するのに今時間が掛かっているということです。

また、S1、S2という基準よりもっと厳しい基準があるのではないかと御指摘ですが、これは今まさに国の原子力安全委員会の耐震指針検討分科会で見直そうという動きがあります。我々としてはこのような原子力安全委員会の評価の結果を待って適切に対応したいと考えております。

それから、御指摘のように当発電所での250ガル相当、375ガル相当に該当する値は同じところもありますが、各発電所により違っております。例えば浜岡発電所のような東海地震が懸念されているところは600ガルなど高く設定されておりますし、柏崎などは地盤がわりと軟弱だと聞いておりますが高く設定されております。また福島は同じ位の値に設定されており、公表されていると思います。

石巻市（西大條参事）： 今回の地震のデータを今検証作業中とのことでしたが、2年前の5月26日に発生した三陸南地震との比較検証も必要だと思いますので、比較を行いデータを提供するよう要望いたします。

東北電力： 検討させていただきます。

須田委員： 放射線モニタ指示値の上昇に係る件ですが、漏えいがあるだろうと思われる燃料集合体の特定はほぼ終わり、関係する制御棒を全挿入して復帰したとのことですが、このような場で説明を受けた方はよく分かるのですが、一般の人の感覚としては問題のある箇所が分かったのに、なぜ制御棒を入ただけで又復旧するんだとなります。普通に考えればそれが当たり前だと思います。ですからこのような方法で復旧をするのであれば、もっとしっかりした説明を県民の方々にすることが必要ですし、逆に誤解をさけるということでは制御棒を挿入しないという選択肢もあったのではないかと思いますので改めて考え方をお示し下さい。

東北電力： 今回制御棒を入れたのは、出力を下げたことで入れない状態でも放射線モニタの指示値が一応安定した訳ですが、出力を上げた状態に戻すと、この漏えいの疑わしい燃料棒の影響により指示値が上がる可能性が極めて高いと判断したからです。放射線モニタの指示値が上がるということは、放射性物質が放出される可能性があがるということですから、我々としてはこれを出来るだけ抑えるためにこのような対策をとったものです。結果として低い値でずっと推移したということになったわけであり、また、我々は発電所を運転するために、放射線だけでなく圧力や温度が幾つになったら運転を止めるなどの色々なルールを決めております。今回はそのような放射線モニタの指示値に関してのルールに規定する値に比べて十分に低い値であることを確認しておりましたので、運転を継続出来ると判断したものです。一寸したことで直ぐ止めたのでは発電所を運転していけませんので、御指摘のようにその辺のところは県民の皆様が安心できる状態で運転しておりますということを、このような場だけではなく色々な場で説明し理解していただくよう努力して参ります。

大学委員： 地震の点検に関し、運転再開までに約1ヶ月係るだろうとの説明がありましたが、そうすると9月中に再開するということですか。

東北電力： 点検や安全確認に要する期間が停止してから約1ヶ月係るだろうと考えております。安全確認がしっかりと出来てから、運転のための準備や御理解を得るための活動を行いたいと考えておりますので、何時再開できるかを言及できる段階にはないと考えております。今回3基とも同時に止まったものですから、人手や資機材の関係で3基一緒には出来ないで、今考えているのは2号機、1号機、3号機の順番で対応したいと考えております。特に3号機については元々10月から定期検査に入る予定でしたので、定期検査を少し早めて、定期検査の中で安全確認や解析評価を実施していきたいと考えております。

大学委員： 女川原子力発電所は、全国の同様の施設と比較しても稼働率の高い施設だと理解しております。今回の停止が安定供給や稼働率に与える影響はかなりあるのでしょうか。

東北電力： 1年の内で1ヶ月ほど停止するというのは稼働率にはかなり効いてくると思います。

大学委員： 全力で点検して頂き、早期に再開するよう要望します。稼働率により自治体の財源や国・県の税収も変わってきますので、安全を確認した上で、全力で再開を急いで頂きたい。

東北電力： 安全を第一にした上で、しっかりと確認し早期に再開したいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

議長： 他に御意見、御質問はございませんか。

色々と御意見がありました。いずれにしても運転再開に向けたしっかりとした点検をお願いします。また、今回の地震で、施設の耐震性について県民・住民の関心は非常に高いものがあります。その点については詳細に解析を行い、その結果をわかりやすい形で情報公開するようお願いいたします。

それでは、次の報告事項に移ります。

報告事項「ロ」の「平成 17 年度原子力防災訓練について」説明願います。

ロ 平成 17 年度原子力防災訓練について

(事務局から平成 17 年度原子力防災訓練について説明)

議長： ただ今の説明につきまして、御意見、御質問がございましたらお伺いたします。

(なし)

議長： 御意見、御質問はございませんか。

なければ、他に報告する事項などありましたらお願いします。

(なし)

議長： ないようですので、報告事項を終了といたします。その他の事項として、事務局から何か連絡等がありますか。

事務局： 次回の協議会の開催日を、決めさせて頂きます。3 か月後の平成 17 年 11 月 17 日の木曜日、仙台市内での開催を提案させて頂きます。

5 次回開催

議長： ただ今事務局から説明がありました。次回の協議会を 17 年 11 月 17 日の木曜日、仙台市内で開催することよろしいでしょうか。

(異議なし)

議長： それでは、次回の協議会は平成 17 年 11 月 17 日の木曜日に仙台市内で開催しますので、よろしくお願いたします。

議長： その他、何かございませんでしょうか。

他になければ、これで、本日の議事が終了いたしましたので、議長の職を解かせて頂きます。

6 閉会

司会： ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、第 99 回女川原子力発電所環境保全監視協議会を終了といたします。